

野良猫の港町、火山、原生林、
樫のトンネル。島ひとつがま
るまるロゲイニングのフィ
ールド。

2014年10月4日(土) 東京都・伊豆大島
大島ジオパークロゲイニング大会



大島のジャングルトレイルを走り抜ける
横浜 OLC-B チーム

結果

6 時間男子	
1 ES 関東 C ロゲイン部シニア	1307 点
2 ディバズのいのししライオン	1267 点
3 古手しらべ	1230 点
6 時間女子	
1 ねこばばロゲ猫班	864 点
2 Club 阿蘭梨お松&寿	829 点
3 SMG	682 点
6 時間混合	
1 Team KURO	1232 点
2 チームとりけも	1210 点
3 チーム遠足	1208 点
3 時間一般	
1 チーム瀧川	774 点
2 2243	556 点
3 ES 関東 C 伊豆大島 O 運営	556 点
3 時間ファミリー	
1 湧水点	555 点
2 TEAM KOMEDAWARA10	468 点
3 ハコフグ	419 点
3 時間ソロ	
1 青葉会 87	777 点
2 ラン★ネクサス	567 点
3 キートス①	510 点

台風災害の爪痕

2013 年秋に台風による大雨で、伊豆大島で大規模土石流が発生し、多くの

人的被害が出たことは、まだ記憶に新しい。第一回の大島ロゲイニング大会が2013年3月に行われたその半年後の大災害だった。

特に被害者が多く出た元町地区は、ロゲイニングのポイントが置かれ、多くの参加者が走り回ったフィールドでもあった。

大島はすぐには立ち上がれなかったが、開催時期を秋に延ばして第二回目のロゲイニング大会が今回行われた。というのも大島の主要産業は観光である。災害があろうとも、すぐに復帰し観光客を積極的に受け入れなければ、大島経済は壊滅してしまうのだ。

第一回に続き、今回も大会にエントリーしたのは、そんな大島の皆さんの姿を見たいと思ったからだ。

スタートのある元町港から見上げる三原山の外輪山は激しく崩れたままの姿を見せている。その崩れた痕はまるで夏場のスキー場を思われるほど、広範囲に広がっている。



3 時間一般で優勝したチーム瀧川
海沿いの遊歩道でフィニッシュに向かう。

御嶽山噴火の影響

この大会のちょうど一週間前に長野県と岐阜県にまたがる御嶽山が噴火し、多くの登山客が巻き込まれた。噴火災害としては戦後最大の死亡者を出している。まだまだ行方不明者の捜索が行われている最中に、この大島ロゲイニングが行われた。

大島の観光の目玉は、三原山活火山である。ところが火山に対する世間の印象はここ一週間で一気にネガティブなものになった。

今回のロゲイニングでは三原山の火口付近にもコントロールが置かれていた。そこを攻略した参加者に聞くと、観光客は悲惨なほど少なかったという。

そういえば往復の船に乗っていた乗客は少なかったような気がする。

台風災害に加えて、火山に対するマイナスイメージ。大島はますます人々の記憶から薄れているような気がした。

200 人が大島を走る

そんな大島に、募集定員いっぱいの200名のロゲイナーが走った。どこことなく元気がない大島が少しは華やいだ気がした。走っていると島の人たちから「がんばれー」と声援を受けることがある。第二回目を迎えてロゲイニングのことを知っている島民も少し増えているのかも知れない。

実際、大島のフィールドは走りやすい。道はそれなりに広いのだから、車の量が少ないのだ。大きな道路にはしっかり歩道も整備されている。

ジャングルを走る

山に入るとびっしりと生えたヤブの中を抜けてゆく、まっすぐな小径を辿ることが多い。

私が最近入っているトレインは長野県と全く違う植相の森を走ってゆくの面白。

バスを駆使

今回のロゲイニングでは大島内を走る路線バスの利用が認められている。とはいってもその本数が少なく、有効に利用には戦略が求められる。今回は私たちのチームでは積極的にバスを利用することで、体力以上のパフォーマンスを出すことに成功した。

(木村佳司)



伊豆大島・岡田港